

黒石市ミニデータ

- 人口 29,557人
(男13,823人、女15,734人)
- 世帯数 14,059世帯
(令和8年6月末現在)
- おすすめ特産品、スポット
りんごジュース、金平成園(かねひらなりえん)

【概況】

三方に津軽平野、東に八甲田連峰が連なり、青森県のほぼ中央に位置する。
令和6年に市制施行70周年を迎えた。豊かな自然と豊富な温泉に恵まれた古くからの城下町。



青森県の 市町村 情報

黒石市発★キラリ

各市町村で活躍するグループ・団体・企業等を紹介します。

今回は『男女共同参画をすすめる黒石ハーモニーの会』を

11年ぶりにご紹介。会長の石澤恵美子さんにお話を伺いました。

黒石市をよりよくするために 活動を続けて20余年

平成15年に行われた「男性の家庭・地域参画事業」男らしさから自分らしさへの実行委員のメンバーにより、平成16年に設立された「男女共同参画をすすめる黒石ハーモニーの会」。現在は50〜70代の21名が会員として在籍しています。

会報誌の制作、年に一度の清掃活動、イベントでの啓発活動、黒石市と連携した講座の開催など多岐にわたる活動をして、設立当初から現在に至るまで20数年続いている同会。特に近年は、黒石市で行っている市民向けの公開講座「未来塾」女(め)・男(お)・輝かせてと共催で、年に一度実施しているフォーラムが、大きな活動のひとつとなっています。

「設立のきっかけとなった事業を一度きりで終わらせたいという思いから、この会は始まりました。名前の通り、男女共同参画について黒石市民に広く知っていただくというのが会の活動目的です」と、会長の石澤さん。「活動目的は今も当初から変わっていませんが、取り巻く環境は変化しています。男女共同参画への意識は当初より高まっ



▲「男女共同参画をすすめる黒石ハーモニーの会」会長 石澤恵美子さん

ているという話も、ここ数年メンバー間でよく出るようになりました。時代の流れとともに着実に進展しているのを感じる一方で、例えば男性が育休を取ることに、会社の中で取りにくい状況ではないけれど、祖父母世代などの家族から必要ないと言われるなど、まだまだ意識が変わっていない部分が残っているというように話も多く聞きます。そのような簡単には変わらない部分にどのように働きかけていくか、そしてもう一つ、会の活動をつないでいくことも昨今の課題として、日々活動に取り組んでいます。

今年度は、男女共同参画ネットワーク・津軽広域及び市町村担当者会議の事務局も市とともに担うことになっており、さらなる活躍が期待されます。

変革の時代を歩み感じる これからの未来に必要なこと

石澤さんは、これまでに印象に残った取り組みに、社会人と学生の交流会があると話します。「やっぱり若い方たちに地元に残っていただきたい。男女共同参画とは直接的には結びつかないかもしれないですが、まちづくりや気づきという部分に関してはつながってきますし、大切なことだと思うんです」と話します。

「先日、黒石アートBOXが誕生しました。廃校を利用した、子どもから高齢者まで幅広い世代が、学びや創作を通じて交流できる文化活動拠点です。若い世代の方々に知っていただける活動がこれからは必要だと思っているので、このような場を利用して、交流の機会を大切にしていきたいですね」と、これからの展望を話してくださいました。

男女共同参画 担当者からの 一言コメント

黒石市企画財政部企画課



黒石市では、すべての人がその個性と能力を十分に発揮し、誰にとっても住みよい社会を形成することを目指してきました。今年3月には、「すべての人がそれぞれの希望する場所で活躍できるまち」の実現へ向け、「第4次くるいし男女共同参画推進プラン」を策定。「すべての人があらゆる分野で活躍できる社会づくり」「すべての人が安心して暮らせるまちづくり」「すべての人が共に参画できる社会の実現」の3つを基本目標に掲げました。具体的な取組としては、年に数回未来塾「女(め)・男(お)・輝かせて」を実施して市民のみならず、男女共同参画について学んでいただいたり、男女共同参画情報誌「みらい通信」を年に2回発行して多くの人へ周知を図るという事業を行っています。

「黒石ハーモニーの会」のメンバーのみなさんには、このような当市の男女共同参画事業にもご協力をいただいております。今年度は当市が男女共同参画ネットワーク・津軽広域及び市町村担当者会議の事務局を担当することになっており、そこでも主体となって動いてくださっています。会のメンバーのみなさまの持つ幅広い知見をお借りしながら、津軽地域における男女共同参画を推進していきたいと思っています。

(取材：井藤 雪香)